

宝塚市の回答

避難元の高浜町や兵庫県等と協議をしていきたい

スクリーニング場所は代替を検討してほしい/ 避難する住民の全員検査を



8月22日、避難計画の問題で兵庫県宝塚市に申し入れに行きました。市役所の会議室で約1時間、市からは総合防災課の伊津課長と担当者が出席され、市民は宝塚市・尼崎市・西宮市・三木市・明石市・大阪市・堺市から計8名が参加しました。宝塚市議の大島淡紅子（ときこ）議員も参加され、申し入れの設定に尽力していただきました。

宝塚市は、原発事故時には三田市、猪名川町と共に、福井県高浜町の住民約1万人の避難先になっています。その内、宝塚市は約7,000名を受け入れる最大の避難先です。今回は、避難時のスクリーニングの問題と避難する住民の検査に絞った申し入れとなりました。宝塚市には具体的なことは知らされていませんでした。40インチ程のテレビに防災訓練の写真や資料を映して説明し、熱心に聞いてもらいました。最終的に、宝塚市から高浜町や兵庫県等に対して、改善の要望等を出し、協議していきたいと回答されました。

3月には、おおい町の避難先である伊丹市や川西市から、スクリーニング場所の変更と全員検査を求め、協議したいとの要望が避難元のおおい町に出されています。これらに続いて、宝塚市からも避難元自治体との協議が始まることでしょう。

◆「スクリーニングの問題点は今回初めて知った」

- ①ウェットティッシュでの拭き取り除染（美山長谷運動広場）と②入口と出口が同じで再汚染する綾部PA（あやべ球場）

この二か所は、高浜町住民やおおい町住民等のスクリーニング場所となっています。①の美山長谷運動広場は京都府南丹市にあります。広場周辺には民家が多くあり、住民の皆さんから除染で出る汚染水によって広場や由良川が汚れてしまうとの懸念が出されていました。そのため福井県は、流水を使わずに拭き取り除染だけにすると約束し候補地となりました。しかし、ウェットティッシュでの拭き取りと流水除染では、その効果は明らかに違います。

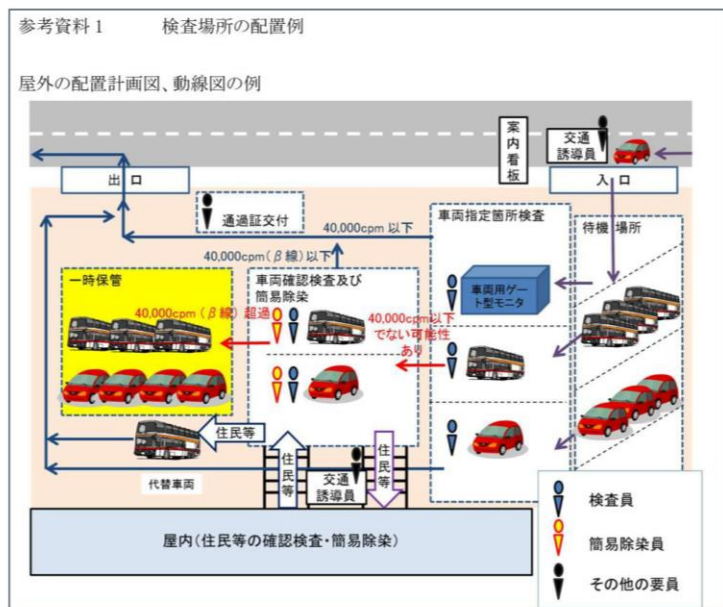


美山長谷運動広場での除染訓練 2018.8.26



あやべ球場での流水除染 2016.8.27防災訓練

②のあやべ球場では、これまでの防災訓練でも流水除染が実施されています。しかしこの場所は入口と出口が同じで、除染しても車両は再汚染されてしまいます。国のマニュアルでは「車両や住民の移動を一方通行とするなど、簡易除染が不要な車両、住民及び携行物品が汚染しないようにして下さい」（マニュアル 6 頁）と書かれています。そのためこの場所は、マニュアルに違反しているのです。



「原子力災害時における避難退域時検査及び簡易除染マニュアル」
参考資料より 原子力規制庁

この二か所のスクリーニングでは、避難する高浜町住民の安全も確保できず、避難先の宝塚市にも汚染を持ち込むことになってしまいます。南丹市住民の懸念も踏まえて、これらはスクリーニング場所から外すべきだと説明しました。

宝塚市の担当者は、「このようなスクリーニングの実態は初めて知った」「代替の場所があれば検討してほしい」と述べました。

◆「全住民の検査が、避難する高浜町住民と宝塚市の安全につながる」

国のマニュアルでは、避難する住民の全員を検査するのではなく、まず「代表者」を選んで検査することになっています。代表者が基準値以下なら同乗者全員が基準値以下とみなされます。

これについて宝塚市は「全住民の検査が、避難する高浜町住民と宝塚市の安全につながる」と明確に回答し、全住民の検査を求めたいとのことでした。また、P A Z（約 5km 圏内）住民は放射能放出前に避難するため検査はありません。しかし、避難の途中に被ばくする可能性も高いため「P A Z 住民の検査も必要。避難先自治体にもサーベイメータが必要」という認識を示されました。当然のことです。



翌日 23 日には、避難元の高浜町に申し入れに行くため、今日の宝塚市の回答等を伝えますと話し、宝塚市からも高浜町に要望等を伝え協議を進めたいとのことでした。